

独立行政法人
宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
の18年度 年度計画等について

平成18年4月12日
宇宙航空研究開発機構

経営企画部長 川上 伸昭

中期目標と中期計画の変更

●「行政改革の重要方針」を踏まえた人件費削減

- ✓平成22年度までに平成17年度の人件費と比較し5%以上削減する。(平成19年度の人件費については、平成17年度の人件費と比較し、概ね2%以上の削減)
- ✓役員の人件費については、国家公務員の指定職俸給表の見直しに準じて必要な見直しを進める。また、常勤職員(任期の定めのない職員)の給与等の処遇については、成果主義に基づく運用を行い、一層のメリハリをつけた運用等に努める。

●「独立行政法人等の業務・システム最適化実現方策」を踏まえた取組み

- ✓財務会計業務及び管理業務に係る主要な業務・システムについて、最適化計画を策定・公表し、同計画の実施に着手する。

●宇宙ステーション計画の見直しに伴いセントリフュージの引渡しを変更

- ✓セントリフュージについては米国の要求するコンポーネント等を地上で引き渡す。

●H-IIA能力向上型の名称をH-IIBロケットに変更

平成18年度年度計画の概要

1. 基本的な考え方

平成17年2月のH-IIAロケット打上げ再開を契機に、平成17年度は計画した多数のミッションを実施し、平成15年の一連の事故・トラブルによる停滞から脱し着実に前進した。また、経営理念と長期ビジョンの策定とともに、新しい人事制度やより確実なミッション・サクセスに向けた組織体制の導入など、改善を着実に進めてきたところである。

平成18年度においては、信頼性の確立に一層努めることはもとより、現中期目標期間が残すところあと2年となったことから、機関統合の効果を最大限発揮し、中期計画の確実な達成に向け業務を遂行するとともに、将来に向けた取り組みを行う。

2. 総合力の発揮

- 確実なミッションサクセスに向けて、JAXA全体のシステムズエンジニアリング能力強化、プロジェクトマネジメントの改善を図るための具体的な業務プロセス及び手法の構築に引き続き取り組む。
- JAXA全体の技術力を持続的に強化し確実な事業に資するための人材育成に努める。
- 第3期科学技術基本計画等の方針に基づき、また、JAXA長期ビジョンに関する内外の広範な議論や検討を勘案しながら、JAXAの事業のあり方について総力を結集して検討を行う。将来のJAXAの具体的計画に資する検討となる、月・惑星探査、宇宙ロボット技術等に関する研究については、横断的に取り組む。

3. 業務の効率化

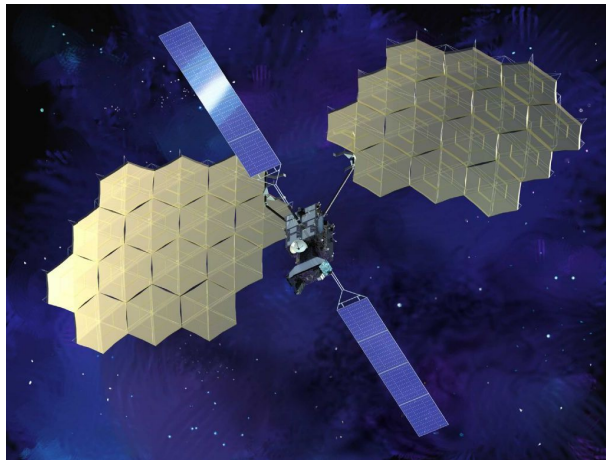
- 昨年度策定した管理業務改革基本計画に基づいて管理業務の効率化を行う。
- 昨年度策定した外部委託化実行計画に沿って、委託業務の効率化及び外部委託範囲の一層の拡大の検討を進め、外部委託を計画的に実施する。
- JAXAの研究開発業務をより効果的・効率的に行うため、大学との新たな連携強化のあり方について検討する。
- 情報ネットワークの活用による管理業務の効率化を進めるとともに、業務・システムの最適化を図るため、最適化計画の策定に着手する。
- 平成19年度の人件費を、平成17年度の人件費と比較して、概ね2%以上の削減するために必要な取組みを行う。
- 役員の人件費については、国家公務員の指定職俸給表の見直しに準じて必要な見直しを進める。また、常勤職員（任期の定めのない職員）の給与等の処遇については、成果主義に基づく運用を行い、一層のメリハリをつけた運用等に努める。

4. 理解増進・国際協力

- タウンミーティング等の対話型の広報活動の展開
- 教育支援活動及び体験・参加型プログラムの拡大
- 教育活動における海外宇宙機関との連携
- アジア太平洋地域との連携の強化 など

5. プロジェクトの確実な推進

- H-IIAロケット(204型)により、技術試験衛星Ⅷ型(ETS-Ⅷ)を打ち上げる。



【基幹ロケット】

204型の開発を確実にし、H-IIA標準型の技術の民間移管を進める。

【移動体衛星通信】

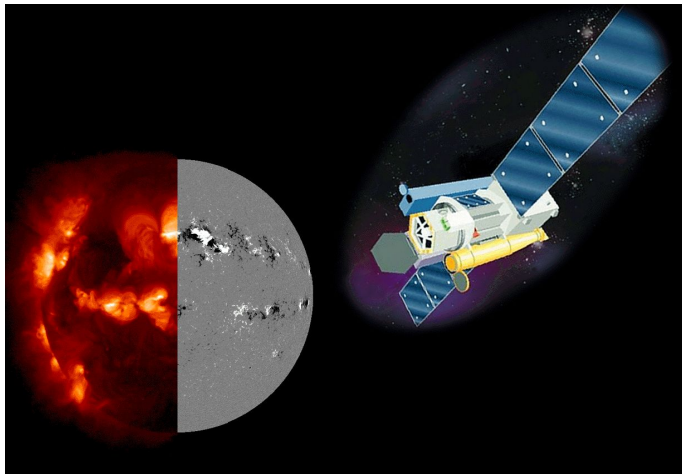
ETS-Ⅷの衛星システムプロトフライト試験を実施。射場整備作業を実施後、打ち上げを行う。打ち上げ後の衛星に対して、初期機能確認を実施する。

【防災・危機管理利用】

技術試験衛星Ⅷ型(ETS-Ⅷ)を用いた防災・危機管理のための実験に向けて準備作業を実施する。



- M-Vロケットにより、太陽観測衛星(SOLAR-B)を打ち上げる。



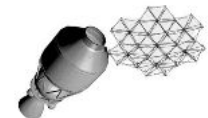
【宇宙科学研究】

3つの望遠鏡を組み合わせ、宇宙プラズマ物理学の基本的諸問題を解き明かす。

- ・可視光望遠鏡 による世界初の3次元磁場計測
- ・高分解能X線望遠鏡 によるコロナ構造の観測
- ・紫外線撮像分光 によるコロナ運動の解明



- 情報収集衛星の受託打ち上げ(2回)を想定。
- 大型展開アンテナ部分小型モデル(LDREX-2)を用いた軌道上事前実証の実施。



6. 数値目標 ()内は17年度目標値

➤共同研究件数	400件(400件)
➤若手研究者の受け入れ・育成	80人(80人)
➤人材交流	150人(150人)
➤特許等出願数	115件(110件)
➤施設設備供用	50件(50件)
➤研究・技術報告	100報(100報)
➤ホームページ	23000頁(23000頁) 400万アクセス／月(400万アクセス／月)
➤講師派遣	200件(200件)

以 上

(参考1) 年度計画の位置づけ

独立行政法人は、毎事業年度の開始前に、その事業年度の業務運営に関する計画(年度計画)を定め、これを主務大臣に届け出て公表することが、独立行政法人通則法にて義務付けられている。

○独立行政法人通則法

第二節 中期目標等 (中期目標)

第二十九条 主務大臣は、三年以上五年以下の期間において独立行政法人が達成すべき業務運営に関する目標(以下「中期目標」という。)を定め、これを当該独立行政法人に指示するとともに、公表しなければならない。これを変更したときも、同様とする。

2 中期目標においては、次に掲げる事項について定めるものとする。

一 中期目標の期間(前項の期間の範囲内で主務大臣が定める期間をいう。以下同じ。)

二 業務運営の効率化に関する事項

三 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

四 財務内容の改善に関する事項

五 その他業務運営に関する重要事項

3 主務大臣は、中期目標を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴かなければならない。

(中期計画)

第三十条 独立行政法人は、前条第一項の指示を受けたときは、中期目標に基づき、主務省令で定めるところにより、当該中期目標を達成するための計画(以下「中期計画」という。)を作成し、主務大臣の認可を受けなければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。

2 中期計画においては、次に掲げる事項を定めるものとする。

一 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとすべき措置

二 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

三 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画

四 短期借入金限度額

五 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

六 剰余金の使途

七 その他主務省令で定める業務運営に関する事項

3 主務大臣は、第一項の認可をしようとするときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴かなければならない。

4 主務大臣は、第一項の認可をした中期計画が前条第二項第二号から第五号までに掲げる事項の適正かつ確実な実施上不適当となったと認めるときは、その中期計画を変更すべきことを命ずることができる。

5 独立行政法人は、第一項の認可を受けたときは、遅滞なく、その中期計画を公表しなければならない。

(年度計画)

第三十一条 独立行政法人は、毎事業年度の開始前に、前条第一項の認可を受けた中期計画に基づき、主務省令で定めるところにより、その事業年度の業務運営に関する計画(次項において「年度計画」という。)を定め、これを主務大臣に届け出るとともに、公表しなければならない。これを変更したときも、同様とする。

2 独立行政法人の最初の事業年度の年度計画については、前項中「毎事業年度の開始前に、前条第一項の認可を受けた」とあるのは、「その成立後最初の中期計画について前条第一項の認可を受けた後遅滞なく、その」とする。

(参考2) 今後の打上げ予定

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
H-IIA /H-IIB	▲ 陸域観測技術衛星 「だいち」(ALOS) 1月24日打上げ成功 ▲ 運輸多目的衛星 新2号「ひまわり7 号」(MTSAT-2) 2月18日打上げ成功	▲ 情報収集衛星 ▲ 技術試験衛星Ⅷ型 (ETS-VIII) ▲ 情報収集衛星	▲ 月周回衛星 (SELENE) ▲ 超高速インターネット衛星 (WINDS)	▲ 温室効果ガス 観測技術衛星 (GOSAT) ▲ 宇宙ステーション補給機 (HTV)実証機 ▲ H-II B(H-II A 能力向上型) 試験機
M-V	▲ 第23号科学衛星 「すざく」(ASTRO-EII) X線天文観測 7月10日打上げ成功 ▲ 第21号科学衛星 「あかり」(ASTRO-F) 赤外線天文観測 2月22打上げ成功	▲ 第22号科学衛星 (SOLAR-B) 太陽観測衛星		
その他	▲ 光衛星間通信実験衛星 「きらり」(OICETS) 8月24日打上げ成功 ▲ 野口飛行士 (スペースシャトル) 7~8月ミッション成功	▲ LDREX-2	▲ ▲ JEMモジュール	▲ JEMモジュール ▲ LNG推進系 飛行実証1

注1:18年度以降の計画については、必要な予算措置が講じられるとともに、開発が順調に進捗することを前提としており、今後の見直しによっては変更がありうる。

注2:カッコは外部機関の衛星